

温泉通信簿・立山、能登の巻

菅田一郎 (RSKOB)

性懲りもなく一週間の温泉めぐりが始まる。

今回は立山・黒部アルペンルートと能登半島一周の旅程を組んだ。

今回はそれほど有名な温泉宿があるわけでもなく、どちらかといえば観光ポイントと宿の良し悪しにこだわった。(宿泊料金はややグレードの高いプランを選んだ宿もあります。今回も一人旅ではありません)

《千寿荘》10/5

10月5日(日)朝8時40分岡山発の「のぞみ」に乗り、新大阪で特急「サンダーバード」に乗り換えて富山には12時56分に着く。さらに私鉄で1時間程かけてアルペンルートの登山口、立山駅前の宿「千寿荘」に入った。台風18号の余波で富山は雨だった。

登山客が利用する宿で取り立てて何もないが女将さんは親切で立山の情報に詳しい。

翌朝、千寿荘の窓から外を見ると篠突く雨、それにもかかわらず観光バスが次から次にやって来てケーブルカー駅に吸い込まれてゆく。

スケジュールが変更できない東南アジアのツアー客がほとんどだった。チェックアウト時スーツケースは宿にあずかってもらうことにした。

千寿荘

宿泊料 @¥8,000

HP <http://www.senjusu.jp>

評 ★★★★★



アルペンルートの拠点・立山駅



千寿荘

《みくりが池温泉》10/6

立山・黒部アルペンルートは日本有数の大観光地であり、今回最も興味をそそられた場所でもある。自家用車の乗り入れは禁止されている。富山側からケーブルカー、高原バス、トロリーバス、ロープウェイを乗り継いで長野県側に出られるが、8時間ほど要する。

費用は立山⇄黒部湖往復で10,790円。

今回はどうしても2,410メートルの「日本一高所の天然温泉」を謳う「みくりが池温泉」に泊まりたかった。

とりあえず黒部湖まで行き、折り返してみくりが池温泉に入った。

乗り物は悪天候にも関わらず満員、東南アジア系の言葉が入り乱れ「ここは日本なの？」とってしまう。

終日雨で山はけむり何も見えない五里霧中、途中大観峰ロープウェイからの紅葉が唯一の収穫だった。

写真は撮る気になれず1枚もない。

みくりが池温泉は日本最高所に位置する室堂ターミナルから徒歩で15分ほど起伏のある石畳の道を歩く。

山小屋の雰囲気が残る22室の大きな宿であるが部屋にはテレビもなくシンプルそのもの。

小ぶりなお風呂で硫黄の香りがする白濁のお湯が楽しめる。人気宿だけあってこの日も満室に近い賑わい。若いスタッフがテキパキと働いて適度な気配りが心地よい。11月25日から冬季休業に入る。

さて、一泊して翌朝、スタッフの予言通りあたりは一面の雪、立山室堂の初冠雪に遭遇した。おまけに突き抜けるような日本晴れ。経験したことのない絶景だった。

みくりが池温泉

宿泊料 @¥14,190 (予約金@¥2,000を前払い)

温泉 単純硫黄泉, 70℃、近くの地獄谷から引湯

HP <http://www.mikuri.com/>

評 ★★★★★



みくりが池温泉



立山室堂の初冠雪

《休暇村能登千里浜》10/7

山を下りて富山まで戻り、レンタカーで能登西岸の千里浜海岸を目指した。約1時間半の道のりである。

休暇村は全国どこでも最高のロケーションに広大な敷地を持つ施設であり、国のやることは違うなあとも思う。

ここの温泉は本物で源泉かけ流し、豊富な湯量だが加水している。宿から徒歩5分で海岸に出る。5時28分日没に合わせてカメラを西に構えた。雲一つない穏やかな海に太陽が静かに姿を消してゆく。最高の夕陽とシャッターを何度も押した。

一つ気がかりなのは海岸の松林がかなり松くい虫にやられ手の付けられないような状態だった。紅葉の松はいただけない。

近くには千里浜なぎさドライブウェイがあり全長8kmの砂浜を自由に走ることができる。砂がきめ細かくアスファルトと同じような感触であった。

休暇村能登千里浜 (ちりはま)

宿泊料 @¥12,130

温泉 ナトリウム塩化物泉、52.4℃、

HP <http://www.qkamura.or.jp/noto/>

評 ★★★★★



部屋から松の紅葉？



千里浜の夕陽

《深三》10/8

休暇村を出て、千里浜なぎさドライブウェイ、重文・妙成寺を経て能登半島を西海岸沿いに北上、輪島に入る。

輪島港の近くに今晚の宿「深三」がある。

部屋数4、能登ヒバや杉をふんだんに使った柿渋下地拭漆造りの小さな宿。

装飾や料理に至るまでこだわりが見られ、何よりうれしいのは若い気さくなご主人と美人女将のさわやかさである。お風呂は輪島温泉の給湯であるが取り立てて特徴はない。

輪島朝市は宿から5分ほど。昔訪ねた時より少し寂しくなったように思えた。

深三（ふかさん）

宿泊料 @¥8,500

温泉 ナトリウム塩化物泉、24.4℃

HP <http://www.fukasan.jp/>

評 ★★★★★



千里浜なぎさドライブウェイ



妙成寺五重塔

8キロの終点



深三



少し寂しい輪島朝市



今日の売り上げは？

《民宿ふらっと》10/9

輪島から能登半島を海岸沿いに東へ、途中、白米の千枚田や重文・時国家、日本の灯台50選の碌剛埼灯台を見物、「民宿ふらっと」に入った。オーストラリア人の主人と能登生まれ能登育ちの女将がやっている1日4組限定の宿。夕食は能登の新鮮な海の幸をふんだんに使い、郷土の調味料や保存食などをアクセントにしたシェフの手作りイタリアンが人気。生パスタや能登の調味料いしりなども自家製。食事は地域の芸術家の作品が展示されたダイニングルームでジャズを聴きながらゆっくり楽しめる。敷地は2,000坪、海が見える敷地内の露天風呂で一番風呂を頂いた。温泉ではないが気持ち良さ満点。この日は後から来た若いカップルと二組だけ、連れの彼女がそれ程美人でなかったのが気疲れすることもなかった。こだわった料理が少しずつ間をおいて出てくる。バイキング料理が好きな人には向かない。

民宿ふらっと

宿泊料 @¥14,000

HP <http://flatt.jp/>

評 ★★★★★



千枚田なんまいだ



重文時国家、十分満足



礫剛埼灯台、坂道がきつい



ふらっと玄関



部屋からの眺め

なぜオーストラリア人のご主人なのかは・・・

民宿ふらっと 女将 舟下 智香子さん

1970(昭和45)年の能登で生まれる。1994年、公立小学校の日本語教師としてオーストラリアに滞在中、いまの主人でイタリアンコックのベンジャミン・フラットさんと出会う。日本とオーストラリアの遠距離恋愛を経て、1996年に結婚、翌年に能登町矢波で民宿ふらっとを開業する。

能登の海を一望でき、風情ある宿でゆっくりと能登の伝統食材を使ったイタリアンを味わうことができる。民宿は、宇出津港で朝獲れの新鮮な魚と地元野菜を味わってほしいとの思いから完全予約制。能登の特産物である魚醤「いしり」なども手作りしている。能登の食材の奥深さを後世に伝えたいと、日々、国内外から訪れるという観光客をもてなしている

《コンセプトホテル和休》10/10

「ふらっと」の能登町から海岸沿いに南下、途中温泉マニアの評価が高い神代温泉に立ち寄り、富山市に向かった。

ここでレンタカーを返し宿に入った。新幹線工事でごった返す富山駅のそばにありアクセス最高。部屋数60、ツインは6、残りはシングル。満室の時が多い。ここがなぜ富山市で一番人気の宿か分からなかったが泊まって納得した。まず靴を下足箱に納め素足でチェックイン、スリッパはなく部屋まで畳、室内も畳に低いベッドが置いてある。

浴室は部屋と別に館内に男女別中型浴場があるが温泉ではない。

あらゆる場所が清潔で必要なものがキッチンと揃っている。宿泊料が安い上に朝食が無料。これが格別美味しい。薄味で美味、ご飯が御櫃に入れてある気配り、みそ汁の具も多種。おかわりしてご馳走様。

全国的に話題になる富山市の路面電車にも乗ったが、車両も二両編成の低床型新車が多く、路線案内も親切だった。

コンセプトホテル和休

宿泊料 ¥12,400(二人)

HP <http://waqhotel.com/>

評 ★★★★★

《神代温泉》10/10 立ち寄り

富山に向かう途中、氷見市にある日帰り温泉。

カラスの行水だったがきわめて印象深いお湯だった。幹線道路から簡単に行ける感じだったが、田舎道がだんだん細くなり山に突き当たるようなところにひっそりとあった。鄙びた感じがたまらない。

玄関で「こんにちは！」と何度叫んでも誰もいない。受付の小さな箱に500円入れて浴室へ向かった。かなり大きな宿で廊下は灯が消え薄暗く以前宿泊客を受け入れていたと思われる部屋が静まり返っている。風

呂も貸切、敷地内から自噴する茶色の源泉がいかにも効きそう。昭和25年に石油発掘を試みて石油でなく温泉が噴き出したのが始まり。いつまでこの温泉が維持できるか心配。

神代（こうじろ）温泉

温泉 含炭酸鉄強食塩泉、52.0℃、湧出量1200/分

記事 <http://www.kaze.asia/rotennhuro/kojiro/kojiro.htm>



人影のない神代温泉



敷地内から源泉が

【余談筆談】

最近スーパー民宿が話題になっている。民宿と言えば農漁村の副業として地元産のものを比較的安価で提供する宿のイメージがある。

客のニーズにすべてこたえている訳でもない。

一方、スーパー民宿は受け入れ客数を3～5組程度に絞り、施設、食事、応接にこだわりを見せており、宿泊料も1万円前後である。

今回泊まった「深三」「ふらっと」とも普通の宿にはないホスピタリティを感じた。(了)

記事

http://r25.yahoo.co.jp/fushigi/wxr_detail/?id=20130610-00030297-r25